

## 1 期待する沖縄から期待される沖縄へ



有限会社オーシャン<sup>21</sup>  
取締役研究所長

酒元謙二

経済の活性化及び失業率の改善は、バブル崩壊後特に近年の日本の政治においては最重要となつてゐる課題である。その具体策としては、ベンチャー企業の育成、中小企業の経営強化拡大支援、創造性のある人材育成などがあげられる。それらは言うまでもなく、バブルのはるか以前から沖縄が県を挙げて必死に取り組んできた問題である。しかし、県の経済はますます深刻な状況に陥りつつある。沖縄県の施策は、「のままではこのだらうが。良くな」としたが、それに代わる「シマン」はあるのだろうか。県の各機関の担当者と余つたひにその生懸命さに頭が下がる思ふ。「なかなかたひあらしかば現実の結果は不充分である。従来の条件のもとでも、(充分満足できるとまでは言わない)企画の工夫でいままでよりもよこ結果が出せるの

うまでもなく、バブルのはるか以前から沖縄が県を挙げて必死に取り組んできた問題である。しかし、県の経済はますます深刻な状況に陥りつつある。沖縄県の施策は、「のままではこのだらうが。良くな」としたが、それに代わる「シマン」はあるのだろうか。良くな」としたが、それに代わる「シマン」はあるのだろうか。県の各機関の担当者と余つたひにその生懸命さに頭が下がる思ふ。「なかなかたひあらしかば現実の結果は不充分である。従来の条件のもとでも、(充分満足できるとまでは言わない)企画の工夫でいままでよりもよこ結果が出せるの

### 2 具体的な数値目標

「オーシャン<sup>21</sup>」が経済振興策の一環として起業家育成を手伝い始めた3年になる。しかし、ずっと不思議に感じてゐるところがある。それは、未だに具体的な数値目標がわからぬままである。

世紀が移ろつとしている今、新しい視点「視座、視野」をもつて、中央からの「クニ」に沿う指示を待つ沖縄ではなく、沖縄の地にたって、全体戦略と各施策を提案し、中央からの支援を活用すべく攻める沖縄、つまり県として何かを待つ、期待する沖縄でなく何かを創造する、期待される「沖縄を目指す」時ではないだらうか。斯く言つ私は沖縄に住みはじめた4年、今後21世紀をずっと沖縄と共に生きた、「シマナイチャーピー」予備軍である。

ではないか。これが私共「オーシャン<sup>21</sup>」の最も大きなテーマである。

21世紀が移ろつとしている今、新しい

視点「視座、視野」をもつて、中央からの「クニ」に沿う指示を待つ沖縄ではなく、沖縄の地にたって、全体戦略と各施策を提案し、中央からの支援を活用すべく攻める沖縄、つまり県として何かを待つ、期待する沖縄でなく何かを創造する、期待される「沖縄を目指す」時ではないだらうか。斯く言つ私は沖縄に住みはじめた4年、今後21世紀をずっと沖縄と共に生きた、「シマナイチャーピー」予備軍である。

いのである。初年度(3年前)の起業家育成セミナーを終了して出した結果は、起業12社、雇用創出数64名であった。しかし、この結果が良かつたのか悪かったのか評価のしようがない。次年度への取り組みも前年に對しより良くするために「ガバール」がなかつたのである。

年間1400名の雇用創出、140億円のGDP向上(これは協力可能な県の各機関との連携を前提に)現在「オーシャン<sup>21</sup>」が独自に立てた年次目標である。この数値の根拠は全くでたらめと言う訳ではなく、私なりに可能な範囲の情報を収集して作ったものである。

### 3 施策実行型から目標達成型へ

4 町おこしと現場型プロトコーカー育成

経済活性化(GDP)、雇用創出における県全体の年度ごとの数値目標が具体的に示されれば、各機関ごとの施策の優先順位、重要度、予算のバランスが見えやすくなるのではないか。当然、直接効果の出るものが間接的な支援につながるものそのためのインフラ整備となるものとした政策上の配慮は必要だが、肝心なのは施策を実行することを中心にするのではなく、目標を達成することを主にするべきではない。その結果、企画実行段階では、費用対効果、時間対効果、労働力対効果がポイントになる。そして、年を追うごとにより効果的な施策づくりの一つが見えてくるはずである。

21世紀に行けば新しい沖縄県づくりの現実的かつ効果的な方法として私が期待しているのは、各市町村に最低2名の現場型プロトコーカーを育成する」ことである。県づくりで最も重要な要素に、企画提案能力、組織人材、情報収集及び分析能力、スムートと決断力、資金がある。これは市町村単位の「町おこし」現場活動においても同様で、の全てがそろわないと各事業が成功しない場合が多い。ただ、県単位の施策との最大の違いは、現場の各活動がダイレクトに反応をひき出しある。必然的に「」をベースにしたプロトコーカー能力が飛躍的に向上する(有能な人材を育成できる)可能性を秘めている事になる。最近町おこしを多く手伝つチャンスに恵まれ、前記のような方法が、沖縄の県づくりにおいては、最も現実的ではないだらうかと思つてゐる。最後に、沖縄発のこの方法が(成功した場合)、全國の都道府県のモデルにならないかとの期待もある。

